

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 26 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531102

研究課題名(和文)社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化およびその再構築モデルの開発研究

研究課題名(英文)A research on the substantiation of the citizenship which put the base on social recognition and development of the model for the reconstruction by the child itself

研究代表者

戸田 善治(TODA, Yoshiharu)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：50207586

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：先行研究の研究成果を踏まえ、「社会認識」と「シティズンシップ」の定義とその相即的關係を整理し、「社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化およびその再構築モデル」を開発し、千葉大学教育学部附属小学校、同附属中学校、岐阜大学教育学部附属小学校とともに開発し、研究授業を行った。さらに、上記研究授業の分析を行い、同モデルの有効性を検証するとともに、その成果を全国社会科教育学会および日本社会科教育学会において発表するとともに、研究成果報告書を作成した。

研究成果の概要(英文)：We gave a definition of "social recognition" and "citizenship" and explained a relation between the former and the latter, based on results of the preceding domestic and abroad study. We have developed the model about substantiation of citizenship and its reorganization which based on social recognition. We have developed lessons with my company in a research collaboration schools. Those schools are Chiba university department of education attacher elementary school, Chiba university department of education attacher junior high school, and Gifu university department of education attacher elementary school. We developed the lessons and we taught based on the model, and we inspected the practical validity of the model.

We announced it in an 2014 annual meeting of Japanese Educational Research Association for the Social Studies and Japanese Association for the Social Studies, finally we made a report of study results.

研究分野：社会科教育学

キーワード：シティズンシップ 社会認識教育 社会科教育 シティズンシップの実体化 シティズンシップの再構築 3分の1ルール ちばレポ コミュニケーション理論

### 1. 研究開始当初の背景

現在、シティズンシップ教育が注目されているが、それらが注目されはじめた当時、本研究の代表者である筆者は、社会認識とシティズンシップの相即的關係、シティズンシップの批判可能性、国家観等のイデオロギーとの対峙など、社会科教育学研究において、社会認識を基盤とすることの理論的・実践的意義、研究方法論的意義についての問題提起を行ったが、それに対する反論や言及はほとんどなされてこなかった。しかし、近年では、「批判的参加学習」、「批判的合意形成」、「批判的意思決定」など、シティズンシップあるいは市民的資質の育成を主眼として従来から主張されてきた授業論に「批判的」という用語を加えた研究発表、研究論文が散見されるようになってきた。直接的な言及はなされていないが、それらの研究は社会認識を基盤とすることの理論的・実践的意義、研究方法論的意義という文脈での研究として位置づけることができる。

### 2. 研究の目的

まず最初に、本研究のキーワードでもある社会認識とシティズンシップを以下のように定義した。社会認識とは、授業の場において教師の指導・助言および責任のもとで、すべての学習者内に共通に形成された社会認識が個人化され、学習者個々人の解釈や説明、決定・判断の根拠となる「論理的基盤・枠組み」をさす。これに対して、シティズンシップとは、実社会における決定・判断等の結果であり実施を前提とした市民的活動をさす。ただし、決定・判断等は授業および私生活において、個々人内に、各自の責任において形成された社会認識によって説明されるため、それもシティズンシップの一部と考える。

上記の定義を踏まえ、以下のような三つの研究目的を設定した。

シティズンシップ教育先進国であるイギリスおよび国内の研究先進校の実態調査および研究者への聞き取り調査を踏まえ、社会科という一教科でシティズンシップの育成をめざしながら、その育成が社会教育化せず、社会科教育であり続ける論理の解明。

「社会認識によって実体化された＝シティズンシップの育成」とはどういうことか。なぜ、そのようなとらえ方をするのかを再確認する。

「社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化」ではなく、「およびその再構築」というとらえ方およびその育成モデルを提案するとともに、そのモデルが実践可能なものであることを実証する。

### 3. 研究の方法

まず最初に、シティズンシップの育成モデルを作成し、それに基づき授業を開発し、モ

デルの実践的有効性を検証するという方法をとった。先行研究を踏まえ、「社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化およびその再構築」を以下のように整理した。

「社会認識に基盤を置いたシティズンシップ」

「市民的活動」-「社会認識」-「論理的基盤・枠組み」という三要素を相即的關係かつ論理的整合性があるものとして構造化してとらえる。学習者が実社会における決定・判断等を下した場合、あるいはある市民的活動を行った場合、その背景にはそれらに関わる社会事象に関する解釈・説明等の社会認識およびその根拠となる「論理的基盤・枠組み」が存在していると見なす。

「社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化」

「市民的活動」、「社会認識」、「論理的基盤・枠組み」それぞれを社会事象に関する命題(知識・理解)として、第三者がそれぞれおよびその全体の論理的整合性があるかどうかを、第三者が批判可能な形で明示する。

「社会認識に基盤を置いたシティズンシップの再構築」

再構築の中核は、新たな「社会認識」を習得することにある。新たな「社会認識」の習得によって、既存の「論理的基盤・枠組み」から新たな「論理的基盤・枠組み」へと再構築し、それに伴い「市民的活動」の見直しを行う。

そして、シティズンシップと社会認識の関係を、「シティズンシップの実体化および再構築」モデルを、社会認識、シティズンシップ育成段階、シティズンシップ説明・批判段階、シティズンシップ変容段階、シティズンシップ自己再構築段階という五段階とし、それぞれにおける「市民的活動」、「社会認識」、「論理的基盤・枠組み」を構造化して示した。

これらのモデルに基づき、以下の三つの実践を開発し実験授業を行ない、モデル及び子どものシティズンシップの育成を検証した。

- ・小学校3学年社会科 単元「店ではたらく人とわたしたちの暮らし」
- ・小学校第4学年社会科 単元「自由について考えてみよう」
- ・中学校第3学年公民的分野 単元「ちばレポを通してこれからの地方自治について考えよう」

### 4. 研究成果

本研究の第1の研究成果、「社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化及びその再構築」モデルを作成することである。そして、そのモデルに即した授業計画を作成することができることを実証することである。特に、そのモデルの最終段階にシティズンシップ自己再構築段階を位置づけ、学習者が自身のシティズンシップが妥当であるか

を継続的に吟味・検証し続けることができるものとしている点にある。

しかし、以下のような課題も残された。第1の課題は、同モデルに即して実験授業を行ない、シティズンシップ変容段階までの検証を行うことはできたが、最も重要なシティズンシップ自己再構築段階を検証できなかった点である。第2の課題は、授業としての検証は行うこと、ある特定の複数の抽出児においては同モデルが有効に働いたことは検証できたが、授業を受けたすべての子ども一人ひとりにおいても有効であったかどうかまで検証できなかった点である。

これらの課題は今後の研究課題として継承したい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計8件)

Noboru TANAKA, Differences of Citizenship Awareness in Japan and U.K. -How students argue for controversial issues?-, Citized International Conference, 査読有, 2015, 43-55

三浦朋子, 高等学校公民科における“生命倫理と法”教育の教材開発, 法と教育学会編『法と教育』第3巻, 査読有, 2013年, 23-33

戸田善治・竹内裕一他5名, 中学校社会科における「外国人技能実習制度」の教材化 - 日本の国際貢献と中国人実習生の意識および地域産業の実態との関係に注目して -, 『千葉大学教育学部紀要』第61巻, 査読無, 2013年, 133-143

田中伸, 英国市民性教育研究の方法論的特質 - 3つのアプローチにみられる研究目的・内容・方法の特質と課題 -, 全国社会科教育学会編『社会科教育論叢』第48集, 査読有, 2012年, 87-96

##### [学会発表](計14件)

田中伸・高木良太, 杉浦孝志, 社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化およびその再構築モデルの開発研究(3) - コミュニケーション理論に基づく小学校社会科授業の開発・実践・検証を通して -, 日本社会科教育学界第64回全国研究大会, 2014年11月29日, 静岡大学(静岡県)

戸田善治・佐藤一馬, 社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化およびその再構築モデルの開発研究(1) - 「食」をめぐる社会的重要性の変容を中心に -, 第63回全国社会科教育学界全国研究大会, 2014年11月1日, 愛媛大学(愛媛県)

三浦朋子・椎名和宏, 社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化およびその再構築モデルの開発研究(2) - 地方自治と住民の関係性に着目した社会参画のあり方を例として -, 第63回全国社会科教

育学界全国研究大会, 2014年11月1日, 愛媛大学(愛媛県)

Noboru TANAKA, Differences of Citizenship Awareness in Japan and U.K. -How students argue for controversial issues?-, Citized International Conference, 2013.7.13, Campus Innovation Center, Tokyo(Japan)

Noboru TANAKA, Methodological differences in Japanese and British research on citizenship education, Children's Identity and Citizenship in Europe, 2012.5.25, University of York(U.K.)

##### [図書](計1件)

田中伸(共著), 共同出版, 教師教育講座 中等社会系教育, 2014年, 332頁

##### [産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
取得年月日:  
国内外の別:

##### [その他]

ホームページ等  
岐阜大学 田中伸研究室  
<http://www.nobolta.com/blog/>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

戸田 善治(TODA, Yoshiharu)  
千葉大学・教育学部・教授  
研究者番号: 50207586

##### (2) 研究分担者

田中 伸(TANAKA, Noboru)  
岐阜大学・教育学部・准教授  
研究者番号: 70508465

三浦 朋子(MIURA, Tomoko)  
亜細亜大学・国際関係学部・講師

研究者番号： 7 0 5 8 6 4 7 9

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

佐藤 一馬 ( SATO , Kazuma )

千葉大学・教育学部附属小学校・教諭

椎名 和宏 ( SHIINA , Kazuhiro )

千葉大学・教育学部附属中学校・教諭

高木 良太 ( TAKAGI , Ryota )

岐阜大学・教育学部附属小学校・教諭

杉浦 孝志 ( SUGIURA , Koji )

岐阜大学・教育学部附属小学校・教諭